

# 80年代におけるアヴァンギャルド系現代美術 画廊パレルゴンの活動を焦点として

80年代に先立つおよそ10年のあいだ、神田エリアの画廊街では、銀座の画廊を舞台に展開される優雅なアートシーンに対してアヴァンギャルドな表現活動が果敢に展開されていました。神田は、もの派の登場以降、アヴァンギャルドのメッカとなっていたのです。

しかし、オイルショックを契機とする保守回帰の動きが進行するにつれ、神田エリアの活動は徐々に相対化され、80年代における絵画・彫刻復権キャンペーンは、アヴァンギャルディズムと共に神田エリアを過去化し去ってしまいました。さらに画廊の都内各所への拡散、美術館による現代美術へのコミットメントが、そうした動きを加速してゆきました。

ただし、これによってアヴァンギャルド系現代美術が消え去ったわけではなく、また、後退したわけでもありません。絵画・彫刻の復権をもくろむ勢力がアヴァンギャルドへの抑圧としてはたらいしたのは事実だとし、しかし、アヴァンギャルド系現代美術は潰れ去りしなかつたのです。潰れ去るのではなく、また後退するのではなく、それは伏流化したのでした。どっこい生きていたわけです。

80年代末のパブル経済は、アヴァンギャルディズムの再出現を促し、90年代になると、美術界は、絵画、彫刻に拠点を据える新保守派勢力と、新興アヴァンギャルド勢力による二重構造を呈することになります。

80年代の美術は、そこに至る境界ゾーンに、ちょうど位置しており、伏流化するアヴァンギャルド系の動きと絵画、彫刻への回帰の動きとが、あたかも汽水域のように混じり合う興味深い現象が、ところどころで観測されました。この興味深い現象に場を提供したのが画廊パレルゴンであり、その現象の記録が『現代美術の最前線』なのです。

しかしながら、80年代のアヴァンギャルド系現代美術と90年代のそれとはバブル期を挟み断絶の相において捉えられる傾向が強く、おおかたの歴史叙述はバブル期以前に終始した80年代アヴァンギャルドをネグレクトして、80年代美術を、絵画、彫刻への回帰という線に一本化しようとしがちです。これは80年代の実相を看過しているという点で問題であるばかりか、歴史というものの捉え方に関する誤りでもあります。歴史は、つねに複線的に展開してゆくものであるからです。

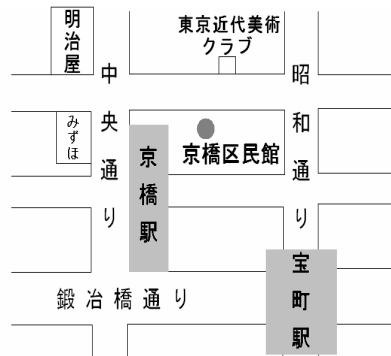
以上のような見方に立って、80年代の美術状況を画廊パレルゴンの活動に焦点を絞って検討するシンポジウムを開催します。パレルゴン運営の中心にあった藤井雅実、パレルゴンを拠点に活動を展開した大村益三、そしてパレルゴンの近傍で活動を展開していた吉川陽一郎、同時代に批評活動を開始した市原研太郎の四氏に加えて、現在の視点からの「介入者」として暮沢剛巳氏をパネリストとしてお招きします。

**パネリスト：市原研太郎、大村益三、暮沢剛巳、藤井雅実、吉川陽一郎** (50音順)

**開催日程：2008年7月6日(日) 入場無料**  
午後1時30分～4時00分

**開催場所：京橋区民館 定員40人(先着順)**  
東京都中央区京橋2-6-7 2・3号室

**主催：「現場」研究会**  
研究会URL：<http://genbaken.com>  
連絡先：[genbaken\\_event@mail.goo.ne.jp](mailto:genbaken_event@mail.goo.ne.jp)



東京メトロ銀座線京橋駅 6番出口 徒歩2分  
都営地下鉄浅草線宝町駅 A5・A6番出口 徒歩2分

## 【パネリストプロフィール】

**市原 研太郎** (いちばら けんたろう)

1949年生まれ。美術評論家。京都造形芸術大学教授。著書に『マイク・ケリー「過剰の反美学と疎外の至高性」』、『ゲルハルト・リヒター／光と仮象の絵画』、『最新世界のアーティストファイル 100』(共著)ほか。また、『After the Reality』など展覧企画も行う。

**大村 益三** (おおむら ますみ)

1957年生まれ。美術家。1979年より発表活動。パレルゴンでは1981年と1982年に個展を行う。他、個展グループ展多数。現在『Peeping dinosaur』展中。2008年より80年代出身作家中心による「ラディカル・クロップス」展を前本誌と共に企画。

**暮沢 剛巳** (くさわ たけみ)

1966年生まれ。美術評論家。跡見学園女子大学、女子美術大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学非常勤講師。著書に『美術館はどこへ』、『風景』という虚構。『美術館の政治学』、『現代アートナメ読み』など。

**藤井 雅実** (ふじい まさみ)

美学、芸術哲学研究。1981～83年、画廊パレルゴン創設。主宰。編著『現代美術の最前線』。共著『人はなぜゲームするのか』、『こんなスポーツ中継はいらない』他。監修・翻訳：CD-ROM『レオナルド』、『ドラクワ』他。共訳：ニード・スピードの反美学。カミング・深読みアート美術館。他。

**吉川 陽一郎** (よしかわ よういちろう)

1955年生まれ。多摩美術大学彫刻学科非常勤講師。1981年より発表。1982年『現代美術の最前線』ギャラリーパレルゴン(東京)、同時期、神田にてスタジオ4Fを、玉置仁・内倉ひとみ氏と共同企画運営。1995年『視ることのアレゴリー』セゾン美術館(東京)、2007年(Primary Field, 神奈川県立近代美術館(葉山))など。